



1位 中央広場



2位 香りのコーナー



3位 ヤブミョウガ



トピックス フウラン

植物多様性を知る・守る・伝える 筑波実験植物園

みごろの植物

第1040号 2025年7月10日 次号予定7/25

今週のベスト3！

青い札が目印です

**1位 中央広場 エキノドルス・グランディフロ
ルス・アウレウスやミズカンナ、マルナガバミ
ズアオイなど、涼しげな花が咲いています。**

【おすすめ】近く白い囲いに、漫画「植物園ではこんなことをやっている 温室と周辺の
植物管理」を掲示しています！あわせてご覧ください！

**2位 香りのコーナー 薄紫色の花を咲かせた
セイヨウニンジンボクが存在感を見せ、ラベン
ダーの花や葉から良い香りがしています。**

**3位 ヤブミョウガ ミョウガに似た葉と、長い
花茎についた白い花がさわやかです。花が咲
いたあとの実も美しく、長く楽しめます。**



じゅもーく先生トピックス

④ フウラン *Vanda falcata* ラン科

フウランは、東アジアの温暖な土地の木に着生するラン科植物です。チューブ状に変形した花びらの一部(距と呼ばれる)に蜜を溜めます。ヤガの仲間が蜜を求めて口吻を距に差し込むと頭に花粉が付き、次の花で吸蜜するときに受粉します。ガの口吻の長さにあわせて蜜を溜める距が進化し、受粉を確実なものにしたと推定されます。花色が夜でも目立つ白であること、夜だけ芳香を放つことも、夜行性のガの行動にあわせてフウランの花が進化したことを裏付けます。

筑波実験植物園長 遊川知久

タマアジサイのまん丸い
つぼみがかわいい♪



紹介コメントは7月7日時点のものです

**① アジサイ‘ポーズブーケ ビビ
アン’** ガクの重なりがバラの花び
らのようです。

② ナツハゼ 赤い実がキラキラし
て宝石のようです。

③ シロバナナガバノイシモチソウ
虫を捕える葉がキラキラ光ってき
れいです。

④ フウラン 高いところで、かわ
いいつぼみがついています。

⑤ ヒメヤブラン 紫の小さな花を
咲かせています。

⑥ ハマゴウ 透明感のある青紫色
の花が開き始めました。

⑦ キヨスミギボウシ 木々の間で
薄紫の花がひっそり咲いています。

⑧ タケニグサ これとともに竹を
煮ると柔らかくなるからという説
と、中空の茎が竹に似ているとい
う説があります。

⑨ マツムシソウ つぼみもたく
さん、これからどんどん咲いてい
きそうです。

⑩ リョウブ 穂状の白い花を勢い
よく咲かせています。

⑪ ギンバイソウ 白いつぼみが集
まってついています。

⑫ レンゲショウマ 丸いつぼみが
ついています。



8/31まで一部の展示とクイズラリーを
継続中！

- A サバンナ温室
- B 熱帯雨林温室
- C 水生植物温室
- D 熱帯資源植物温室

多目的温室(閉鎖中)
絶滅危惧植物温室

自然史標本棟

研修展示棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟

自然史標本棟



見ごろ期間の短いものもあります。ご了承ください。筑波実験植物園では、科の表示を「新エングレー体系」から「APG体系」へ変更しています。筑波実験植物園ホームページ <https://www.tbg.kahaku.go.jp/>



1位・トピックス
ショクダイオオコンニャク



2位 トラフバショウ



3位 レモン‘ポンデローザ’

植物多様性を知る・守る・伝える 筑波実験植物園
温室のみごろ植物
第1040号 2025年7月10日 次号予定7/25

今週のベスト3！ 黄色い札が目印です

1位 ショクダイオオコンニャク 7月7日、小さい個体が2回目の開花を迎えました。7月11日に付属体が倒れました。(展示中)

2位 トラフバショウ 2階手すりから見ると大きな花序と連なった実に圧倒されます。

3位 レモン‘ポンデローザ’ とても大きい実が見られます。

じゅもーく先生トピックス

1位 ショクダイオオコンニャク
Amorphophallus titanum サトイモ科

ショクダイオオコンニャクは、スマトラ島(インドネシア)の限られた場所に生えるサトイモ科の絶滅危惧種です。「花」(植物学的には花序=花の集まり)は高さ3メートル、直径1メートルになるものもあり、世界でもっとも大きな「花」をもつ植物のひとつとされています。また、開花後は独特の強烈な悪臭を放ち世界でもっとも醜い花とも呼ばれています。開花するのは、2023年5月19日に咲いた個体(2号)で、2023年に続き2回目の開花となります。「特設ホームページ」で紹介しておりますように、この植物のおもしろさは成長のプロセス、つまり日々大胆に変化する花芽の形とサイズにあります。今回は13.1kgと本種としては異例の軽さのイモに花芽が着いたことで、これからどのような成長をするかが注目されます。これまで6回開花した個体(1号)の大きな葉や、人工授粉により得られた種子から生育する次世代の苗も合わせてご覧ください。

筑波実験植物園長 遊川知久

見ごろ期間の短いものもあります。ご了承ください。



- ① ハナキリン** 大きなトゲのある枝に朱色のツヤツヤした花(花序)が特徴的です。
- ② ヘリコニア・ビハイ‘カメハメハ’** 色鮮やかな、鳥のくちばしのような苞をもっています。
- ③ ブッソウゲ** 長いめしべが目立つ、真っ赤な花が鮮やかです。
- ④ マダガスカルジャスミン** ジャスミンの良い香りが漂っています。
- ⑤ トーチジンジャー** 燃えるような真っ赤な花序が目立っています。
- ⑥ ピナンギャシ** 丸い実が数珠のように連なっています。

シジュウカラの社会

② ヘリコニアはクイズラリー ④ でも出題中！